

5年生「スーパーグローバル」IDEC 連携プログラム

第2回実施報告

日時：2017年7月29日（土）13:00-16:00

場所：広島大学附属福山中・高等学校内情報教育棟 マルチメディアホール

参加者：生徒21名，留学生7名，大学教員2名，本校教員4名

実施内容

第2回IDEC連携プログラムの柱は「平和」と「教育」でした。第1部では、広島大学の清水先生のご挨拶の後、7名の留学生により、以下のような題目で発表が行われました。

- ① Women workers in Bangladesh: The role of Civil Society in policy making issues regarding women's reproductive health.
- ② Challenges Faced by Teachers towards Implementing Inclusive Education in Classroom: Public Schools in Bangladesh
- ③ ICT Integration in Malawi's Secondary Teacher Education: A Study of Selected Policies from 1994 to 2017.
- ④ An Investigation on How Constructivist Approach Enhances the Teaching and Learning of Science at Primary School Level in Zambia
- ⑤ The Livelihood Changes and Cultural Negotiations of Ethnic Minorities: Focusing on the Expansion of Arabica Coffee Growing Business in Northern Thailand
- ⑥ Discourse Analysis of State Policies of Southeast Asian Countries on Indigenous Peoples Group Land Use in the Context of Intensive Mining Operations
- ⑦ Transnational networks in the peacebuilding process

今回は発表者が多かったこともあり、各発表の終了後に質疑の時間は設けませんでした。全7名の発表が終了後、10分間の休憩をとり、質疑応答（第2部）へと移りました。

第2部では、留学生と生徒がそれぞれ3組にわかれて、第1部での発表内容に関する質疑応答を行いました。「平和」と「教育」は、生徒にとって普段から考えたり触れたりする機会の多い分野ではあるものの、例えばマラウイでは、大学の制度が要因で教師の専門性が高まっていないなど、その現状や課題を理解するためには、各国の社会的背景を知っておかなければなりません。生徒はその点に苦戦し、最初は質問や発言をあまりできませんでした。しかし、留学生が積極的に意見や質問を投げかけてくださり、次第に質疑も活発になっていきました。

今後は、第1回の「環境」、第2回の「平和」「教育」をテーマとし、生徒が留学生に対して発表を行います。この2回の留学生の発表によって、生徒は、内容はもちろん、問いの立て方や発表の仕方なども学ぶことができました。これからは少人数のグル



ープにわかれ、発表の準備に取りかかります。

本日の会の終了後、参加した生徒にインタビューを行いました。その回答をいくつか紹介します。

【参加者の声】

○難しい単語や表現が前回と同様多くでてきてプレゼンを聞く際に困ったことがあったが、聞いたら分かってそこから内容も分かるようになったので、内容でなくても分からないことがあったら聞くようにしようと思った。自分の研究とつながっている部分があったが、似た問題を別の角度からとらえているのが面白いと思ったし、自分の研究にその視点をとり入れるのも良いなと思った。



○日本でも当たり前であると思ったことが世界では異なることがあります、また日本でも他国でも共通することはあるのだと感じた。違いには制度的な違い、考え方の違いなど多様であるため、1つの事象の違いでも、根本はどのような違いによるものかを考えるとよいことがわかった。日本の小中学校の先生は教員免許を取得していることが条件であるが、マラウィでは大学の先生のように免許はないが、その専門な人が中学校の先生をしている。そのため、教育の専門家による指導を初等教育で受けられない現状がある。また先生不足であることが質問を通して分かったが、プレゼンを聞くだけだと私の頭には教員なるもの免許を持っていて当然という考えがあったために、**not trained**の先生は、教師不足のために駆り出された近所のボランティアだと勝手に思っていて、話や問題提起が全く分かりませんでした。当たり前という考えを捨てる大切さと大変さを知ることができました。



○難しい内容のトピックも多かったが事前に予習できたので理解しやすかった。また、発表を聴く中で発見できたこともあり、英語に耳がだいぶ慣れたかなと思った。議論中に沈黙が続いたときにいつも留学生の方から答えやすい質問をしてくれたり、自分の考えを提示してくれたりして、私たちに話しやすい環境を作ってくれた。私はまだ、そのようにする話術も勇気もないが、だんだんできるようになりたい。留学生と話すことは、発表内容だけでなく、これからの自分取るべき姿勢も学べるので本当にいい機会だと思った。



○前は資料や辞書とにらめっこしている時間が長かったので、今回はできるだけ相手の目を見て聞けるようにしました。日本に住んでいても日本の問題について深く考え、解決策まで提案することはあまりないので、自国の問題に取り組むことも必要だと思いました。分からない単語も易しく言い直してくださったのでプレゼンでわからなかったところを理解することができて良かったです。

○教育、平和と、興味をもてるトピックスが多かったけれど、内容が十分に理解できなかった気がするのが悔しいです。教育は私たちが最も身近な場所にいるトピックで、先生として働く留学生の方々や生徒である私たちがお互いの立場からもっと深く議論していったのではと思う。各国の問題について話されていても、日本と通じる部分も多く、そのような場が国際協力の一つの道しるべになるのではないかと思った。